

富山大学医学部同窓会報

2010. 第19号



富山大学医学部同窓会報

2010. 第19号



C O N T E N T S

- 4 . 「東洋の知」が育む国際的医療人の育成を目指して
医学部長 村口 篤
- 5 . 正月蕎麦
会長 高田良久
- 7 . **第2回富山大学ホームカミングデー**
第2回ホームカミングデーを終えて
理事長 田渕英一
- 8 . 第2回富山大学ホームカミングデー・プログラム
- 10 . 写真で綴るホームカミングデー
- 12 . 学生と卒業生の交流会「学生の今と昔」の議事要旨
- 附属センター報告**
- 17 . 富山大学附属病院周産母子センターの紹介
周産母子センター長 齋藤 滋
- 18 . 卒後臨床研修センターより
附属病院卒後臨床研修センター長（総合診療部教授） 山城清二
- 20 . 「卒業生の情報を学生に伝えよう」
～医療人育成は富山大学から～「卒業生は今」シンポジウム
専門医養成支援センターセンター長 戸邊一之
- 22 . “卒業生は今”、シンポジウムのご報告
専門医養成支援センター 副センター長 石木 学
- 24 . 特集 “卒業生の今現在、そして将来” Part 14
川口市立医療センター長 直江康孝
- 新講座紹介**
- 26 . **大学院医学薬学研究部医学教育学講座について**
医学教育学 准教授 廣川慎一郎
- 27 . 〈卒業生教授就任挨拶〉
就任ご挨拶
金沢医科大学感覚機能病態学（耳鼻咽喉科）部門教授 三輪高喜
- 29 . 教授就任の御挨拶
大学院人間科学（1）講座 金森昌彦
- 31 . 〈新任教授挨拶〉
生化学講座への着任に当たって
医学薬学研究部 生化学講座 井ノ口馨
-

染色工芸家。太平洋美術展・新人賞(1982年)、松吉賞(1984年)、太平洋美術会賞(1998年)受賞。各地工芸画廊をはじめ、日本橋高島屋(東京)、現代工芸藤野屋(栃木県佐野市)などで個展を開催している。また、1994年とちぎの美術女流作家100人展にも選ばれる。1999年銀座松屋にて個展を開く。いずれも好評を博す。栃木[蔵の街]音楽祭協力委員として地域文化活動にも貢献。縁あって本同窓会誌の表紙絵を1997年より依頼している。栃木県岩舟町在住。

〈新任准教授挨拶〉

- 32 . 富山大学病院で救急医を育てたい
救急災害医学講座 准教授 有嶋拓郎
- 35 . 旧医薬大ヨット部廃止の連絡を受けて
独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 大島 博

留学記

- 38 . 一カ月 医学科2年 松本かおる
- 40 . Faculty of Medicine, Universiti Teknologi MARA での
臨床実習を終えて 医学科6年 中島孝彰
- 42 . MGHへの留学 医学科5年 野間貴之

〈訃報〉

- 43 . 親友 浅井(旧姓 木間) みゆきさんを偲んで 山本千加子
- 44 . 第61回西日本医科学生総合体育大会
- 45 . 看護学生の入会率低下と対策 医学部同窓会看護学課
- 46 . 平成21年度富山大学附属病院関連病院長懇談会議事要旨
同窓会総会講演 要旨
- 47 . 一酸化窒素と病気との関わり
一機能的食品・生薬からアンチセンスRNAまで—
立命館大学生命科学部生命医科学科 西澤幹雄

- 48 . 平成21年度第28回医学部同窓会総会議事録
- 50 . 医学部同窓会名簿のオンライン化に向けての
試験的稼働スケジュール(予定)
- 51 . 平成20年行事報告・平成21年行事・22年行事予定
- 52 . 平成20年度会計報告・平成21年度・22年度収支予算案
- 54 . 職掌分担・評議員一覧
- 56 . 医学部人事消息
- 57 . 編集後記
●会計からのお知らせ



「東洋の知」が育む国際的医療人の 育成を目指して

医学部長 村口 篤

医師不足による地域医療の崩壊、地方大学医学部ならびに大学附属病院の危機が叫ばれる中、平成21年11月1日に医学部長の大任を命じられました村口でございます。医学部同窓会の皆様には日頃より医学部のためにご尽力頂き、感謝申し上げます。

杉谷医薬系キャンパスの正面入り口近くの道路わきに、昭和50年に建てられた富山医科薬科大学の創設記念碑があります。そこには当時の文部大臣永井道雄氏の筆で、建学理念「里仁為美」の文字が記されています。その意味するところは、「心の拠り所をどこに置こうか。それは、他人を慈しむことに置くのが最も良いことだ」と理解されます。

すなわち、患者の心身の痛みが分かり、無私無欲の奉仕精神を持ち、最善の医療技術を提供できること豊かな医療人を輩出することが、富山医薬大の創立の精神です。この精神は我国の現代医学の源流ともなる緒方洪庵の「適塾」の思想に似ています。

このような建学理念の下に、本医学部はこれまでに教育、研究、臨床面で着実に実績を積み上げ、人材育成と研究業績の成果をあげてきました。人材育成では、平成21年3月現在、学部学生3544名、大学院生（修士、博士合計）1122名を世に送り出しています。卒業生の皆様は、母校のみならず他大学や外国の教授、県内外の医療機関の指導者、あるいは地域医療の要として大いに活躍しています。その精神のよりどころが建学理念の「里仁為美」にあることは言うまでもありません。

新設医科大学の先鞭を切り平成5年に当医学部に看護学科が設立され、爾来、医学科、看護学科、薬学科学生を巻き込む特色ある教育プログラムを展開し、文字通り患者一人一人の痛み思いを馳せることのできる医療人養成を行っています。1年次には「医療学入門」、2年次には「和漢医薬学入門」を開講し、伝統的な東洋医学に現代医学の成果を織り込みつつ、先端的医学知識を身につけた意欲的な学生の育成にキャンパスが一丸になり注力しています。また臨床においては、地域医療従事者の育成、専門医養成支援、がん専門医の育成にも力を入れ、卒業生が地域のみならず世界で活躍できるカリキュラムを整備しつつあります。

富山県は、東西南に標高3000メートルの山々、北に水深1000メートルの富山湾があり、我が国で希少な標高差4000メートルの大自然を擁しています。四季折々の変化に富み、急流の河川を有する豊穰な土地が目前にあり、生命が水を介して循環するダイナミズムを体験できます。このすばらしい自然環境で、立山連峰の雄姿を堪能しながら、強靱な意志と豊かな感性を培い、「東洋の知」を身に付けた「誰からも信頼される」国際的医療人を育成することを目標に掲げ、医学部教職員一同精勤する所存です。同窓会の皆様には温かいご支援のほど、よろしくお願い致します。

正月蕎麦

会長 高田 良久

各地各家に独特の行事や風習があることと思う。

わが高田家では大晦日から三が日にかけての食べものにその特徴がある。この時期、多くの家では、「年越しそば、御節、雑煮」というのが定番であろうが、我が家では、「鮭の粕煮、正月蕎麦、豆腐の味噌汁、とろろ」と決まっているのだ。

いつから、なぜ、そういうしきたりになったのか、祖母や父の語ったところによれば、この地の豪族皆川家が暮れの戦に敗れて餅をつくことができなかつたので、一族郎党は正月に、用意されていた鮭や蕎麦や豆腐やとろろを食べて再起を期した、というものだ。しかし、国内で戦闘が行われたのは戊辰、西南の役を除けば戦国時代で、年越し蕎麦の風習が広まったのは江戸時代のはずだから、これは眉唾だ。

「いわれ」が怪しくなってくると、「前世紀の遺物」などと言って風習を廃し、大勢につこうとするのがあるいは自然かもしれない。たしかに、歴代の「嫁」が、姑亡き後、もう止めよう、といえ、これは容易になくなった風習に違いない。それがそうならずに来た、というだけでも、私はこの風習を続ける価値や意味があると思う。願わくは風化したその意味を明らかにすることが、我々の世代に課せられた責務であるのかもしれないが、意味は明らかにならないでも、風習を続けることによって、そうしてきた父母や祖父母、そしてその先の先祖につながる気持ちになれば、それだけでも続ける価値があるのではないか、と私は思う。

公募を経て選定された栃木第一小学校と第二小学校の統合校名の最有力案「日惜舎小」^{にっせきしゃ}に、「古めかしい」などのクレームがついて再検討となった。

教育委員会が日惜舎を選んだ理由は、二つの小学校の前身で、栃木市初等教育の草分け、明治六年、三級山近龍寺に開設された日惜社^{らな}に困むという。

私は、原点を見据えた、由緒正しい、歴史を生かす命名と思った。

二小卒業で今年大学受験に挑んでいる長男などは、「日惜舎小」^{にっせきしゃ}を「格好いい」と思うようだし、元旦の大護摩供で話をした菩提寺の和尚も、その振る舞いの席で同席しただけの名も知らぬ年輩者も、NPO法人全国町並み保存連盟常任理事の際物屋の主も、万町三丁目自治会の相談役である当院の患者Nさんも、皆私と同じ意見なのだが、今の児童の保護者たちは、「みっともなくして子供がかわいそうだ」とか、「読めない校名はよくない」と思うらしい。

それで、再検討のアンケート最上位は「栃木中央小学校」だった。

2010年3月29日に近隣3町との対等合併が決まった栃木市で「中央」を名乗ろうというのもいささか3町への配慮に欠ける気もするし、なにより、今の自分の感覚、能力が全てで、それにそぐわぬものは学ぼう知ろうとするのではなく、排斥しようとする気持ちにうすら寒い思いを感じる。再検討を強く迫ったのは「進歩的文化人」らしい。

米沢の興譲館高校、福岡の修猷館高校は藩校以来の歴史を今に伝えている。「日惜舎小」^{にっせきしゃ}とすれば、わが町もその列に連なりうるというのに、あえて「中央小」などという、新開地でも命名しうる名称の方がいいと思う感覚には、思いの浅さ、利己主義、刹那主義といった知の怠慢と傲慢が透けて見えるように思う。江藤淳^{なら}氏に倣えば「占領軍の日本改造計画が見事な成果を挙げた」というべきだろうか。

「父母を疎めば自分も不安になるように、歴史という地域の記憶の連なりを疎んでは住む地域を大切にすることもできまい。名は体を現すという。『今』が全てではない。関係各位の深慮と英断に期待したい」

とは、下野新聞に掲載された拙文の結びだが、栃木高校の同窓会で数十年ぶりに再会した同級生もこ

れを読んで同感とのことだった。世代の溝のようなものがあるようだ。

京都大学の佐伯啓忠教授は、2010年1月10日付の産経新聞「日の蔭りの中で」で、「正月らしさ」の喪失を次のように論じておられる。

「・・・少し前までは、正月三が日は店という店はすべて閉店・・・すべてが停止した正月三日間のみそぎをへて、確かに、年が改まり、すべてがリセットされる気がしたものだ」

教授はこれを「型」といい、

「『型』はたいていの場合、慣習であり、特別に合理的な理由は存在しない」

という。しかし、

「そこにはもともとそれなりの意味があり、その慣習を守ることで、人々は、昔の人がもっていた思いを追想し、心を正すことができるのである」

「それを崩してしまったものは、近代社会の合理的発想であり、個人の自由から出発する近代的価値であり、さらには、便利さを追求するわれわれの生活意識と、それに便乗する経済的利益主義である」と指摘する。

酸化ストレス、ERストレスなどによって、2型糖尿病でも、膵β細胞は疲弊するだけでなく減少する、ということがわかってくれば、いたずらにSU剤で引き伸ばすのではなく、インスリン導入を積極的に検討すべきであることは論を俟たないであろう。

第一内科（戸邊一之教授）の同窓生岩田実氏らのグループが、経口剤で血糖コントロール可能か、インスリンを導入すべきかの見極めに有用なCPI（CPR Index）を開発しているそうだ。

いいものを開発してくださっている。

インスリン導入をためらう患者は多い。その理由はさまざまで、麻薬のように一度はじめたら止められない、とか、インスリンを打つようでは末期ですぐに透析や失明に陥る、と本気で心配している方もおられ、順天堂の弘世貴久先生は、「半年やって嫌なら止めましょう」といった説得が功を奏する、とおっしゃる。誤解や思い込みを解いた上で、データによってインスリン導入の提案を裏付けられたらさらにいいと思う。

医学医療のような、新たに明らかにされた真実に、意味や価値がある領域では、近代の合理的発想の威力は絶大だ。1950年代の糖尿病治療に思いを馳せることは無意味とは言わないが、明日の診療に役立つことはほとんどなかろう。しかしCPIの意義が確立すれば、明日の診療に役立つ。

だが、それは私たちの生活全体を支配する法則ではないはずだ。

最近テレビドラマ化された司馬遼太郎氏の『坂の上の雲』を見て思ったのだが、物語の主人公秋山真之^{まゆき}は、たしかに明治の時代精神に大きな影響を受けて軍人の道を歩み、日清日露の戦争で日本を勝利に導いた。明治維新の原動力として、自身の正当性を訴えたい薩長史観からすれば、だから明治は良い時代だ、文明開化はいいことだ、となるだろう。しかし、東郷平八郎（弘化4年、1847年生まれ）にしろ、秋山真之（慶応4年、1868年生まれ）にしろ、江戸期を生きた父母に育てられたことを思えば、むしろ彼らは江戸の土台がしっかりしていたからこそ、明治に大成したのではないだろうか。

昭和の大戦を開明開化に浮き足立って転んだ結果とすれば、その轍を踏まぬよう、私たちは、彼らを明治の華か、江戸の最後の華か、と考えるのも示唆や含蓄に富むのではないだろうか。

いよいよ迫った大学入試に、我が家も緊張が高まっている。

「高田家ノ興廢此ノ一戦ニアリ、啓志^{ひろし}一層奮励努力セヨ」

Z旗を掲げたキットメールを長男に送ったのだが、どうなることか。

「昔からさうしてきたから、あるいはさうするやうに教へられてきたから・・・さういふものが文化であり、教養であります」

と、福田恆存はいう。だから私は、正月蕎麦を食べながら、CPIを診療に生かせればと思うのである。

第2回ホームカミングデーを終えて

理事長 田 淵 英 一


平成21年10月31日(土)午後12時30分～5時30分、富山大学杉谷キャンパスに於いて、第2回ホームカミングデーが開催されました。「ホームカミングデー」は、卒業生に母校を訪れてもらい、卒業生に愛校心を育んでもらうためのイベントとして、富山大学では昨年に第1回が五福キャンパスで開催されています。イベントの内容は、講義実習棟202教室における開会式の後、学生と卒業生の交流会が1時間かけて行われ、それから約2時間半をかけて医学部および薬学部コースに分かれての施設見学会、そして懇親会の後に閉幕となりました(プログラム参照)。

杉谷キャンパスでのホームカミングデー開催が初めてということもあり、予想外に準備に手間取りましたが、参加者さらには主催者・協力者の皆様から「よかったよ」という感謝の言葉をいただいたこと、そして無事に終了したことを大変嬉しく思っています。参加者も、予定の60名を大幅に越え、受付で記入があった方が90名(医学部11名、薬学部32名、連合会24名、学生15名、学生課3名、大学事務3名、広報トムズ1名、学生の親1名)おり、無記入の方も結構おられました。“終わりよければすべてよし”のことわざのとおり、成功裏のうちに終了し、協力いただいた関係者各位に改めてお礼申し上げます。

以前(富山医科薬科大学時代)、薬窓会と医学部同窓会が共同で行う事業(卒業祝賀会など)が毎年あり、今回のイベントは久しぶりの2学部共同の作業となりました。学部間の交流は、お互いの活動を理解する上でも必要と思います。今後も、他学部を含めた学部横断的活動の必要性を感じました。

なお、来年度のホームカミングデーは高岡キャンパスでの開催を予定しております。芸術文化学部の関係者の皆様にはご足労をおかけしますが、主催の程、宜しくお願い致します。





第2回富山大学ホームカミングデー・プログラム

開催日時 平成21年10月31日(土) 午後12時30分～5時30分
開催場所 富山大学杉谷キャンパス
対象者 富山大学卒業生・在学生および富山大学関係者
主催 富山大学同窓会連合会（医学部同窓会、薬窓会）、
富山大学医学部・薬学部、和漢医薬学総合研究所

<日程>

12：30～12：40 開会式 202号室
12：40～13：40 学生と卒業生の交流会 202号室
14：00～16：20 施設見学会 コース毎に学内を移動
16：30～17：30 懇親会 福利・厚生棟2階

<内容>

12：00 受付開始 講義実習棟1階入口
大学、同窓会の紹介等のビデオ上映（常設）
12：30 開会式 講義実習棟2階202教室
開会挨拶：同窓会連合会名誉会長（学長） 西頭徳三（写.1）
医学部長 宮脇利男
薬学部長 今中常雄
12：40 学生と卒業生の交流会（テーマ：「学生の今と昔」） 202号室（写.2）（写.3）（写.4）
パネラー 卒業生代表 医学部3名 薬学部3名（写.5）
学生代表 医学部4名 薬学部6名（写.6）
コーディネーター 医学部同窓会理事長 田淵英一

14:00 学内施設見学 (写.7)

薬学部コース

- ①C B Tの体験実習 (医療薬学研究室)
- ②薬用植物園の見学 (植物機能科学研究室) (写.8)
- ③研究室の見学 (3研究室 各15~20分)
 - ・分子細胞機能学研究室
 - ・薬物生理学研究室
 - ・和漢医薬学総合研究所 (化学応用研究室)

医学部コース

- ①病院 (救急部とCT室) 見学 (写.9) (写.10) (写.11)
- ②研究室見学 (4研究室 各15分)
 - ・分子医科薬理学講座「Vascular Biologyを視る」(写.12)
 - ・分子神経科学講座「セリンラセマーゼノックアウトマウスの作製と解析」(写.13)
「光計測を用いた分子イメージング法の開発」
 - ・システム情動科学講座「空間認知機能の脳科学」(写.14)
「コミュニケーションの脳科学」
「心と身体つながり」
 - ・統合神経科学講座「海馬と記憶」(写.15)
- ③看護学科 休憩 (お茶会)

16:30 懇親会 福利厚生棟2階 談話室 会費2,000円 (写.16)

※規則により、アルコール類は出ません。

挨拶：同窓会連合会会長 北野芳則

乾杯：薬窓会会長 松井竹史

(歓談)

17:30 中締め (薬窓会副会長 府和隆子)

※ (写.○) は、写真で綴るホームカミングデーをご覧ください。